

『浄土真宗のみ教え』のご親教

本年も、皆様と共に立教開宗記念法要のご勝縁に遇わせていただきました。立教開宗とは親鸞聖人が『教行信証』を著して他力の念仏を体系的にお示しになり、浄土真宗のみ教えを確立されたことをいいます。この法要をご縁として、私たちに浄土真宗のみ教えが伝わっていることをあらためて味わわせていただきますよう。

さて、仏教を説かれたお釈迦さまは、諸行無常や諸法無我という言葉でこの世界のありのままの真実を明らかにされました。この真実を身をもって受け入れることのできない私たちは、日々「苦しみ」を感じて生きていますが、その代表的なものが「生老病死」の「四苦」であるとお釈迦さまは表されました。むさぼり・いかり・おろかさなどの煩惱を抱えた私たちは、いのち終わるその瞬間まで、苦しみから逃れることはできません。

このように真実をありのままに受け入れられない私たちのことを、親鸞聖人は「煩惱具足の凡夫」と言われました。そして、阿弥陀如来は煩惱の間に沈む私たちをそのままに救い取りたいと願われ、そのお慈悲のお心を「南無阿弥陀仏」のお念仏に込めてはたらかし続けてくださっています。ご和讃に「罪業もとりかたちなし 妄想顛倒のなせるなり」「煩惱・菩提体無二」とありますように、人間の分別がはたらかだす前のありのままの真実に基づく如来のお慈悲ですから、いのちあるものすべてに平等にそそがれ、誰一人として見捨てられることなく、そのままの姿で摂め取って下さいます。

親鸞聖人は「念仏成仏これ真宗」（『浄土和讃』）、「信は願より生ずれば 念仏成仏自然なり 自然はすなはち報土なり 証大涅槃うたがはず」（『高僧和讃』）とお示しになっています。浄土真宗とは、「われにまかせよ そのまま救う」とい

う「南無阿弥陀仏」に込められた阿弥陀如来のご本願のお心を疑いなく受け入れる信心ただ一つで、「自然の浄土」（『高僧和讃』）でかたちを超えたこの上ないさとりを開いて仏に成るといふみ教えです。

阿弥陀如来に願われたいのちと知らされ、その温かなお慈悲に触れる時、大きな安心とともに生きていく力が与えられ、人と喜びや悲しみを分かち合い、お互いに敬い支え合う世界が開かれてきます。如来のお慈悲に救われていく安心と喜びのうえから、仏恩報謝の道を歩まれたのが親鸞聖人でした。私たちが聖人の生き方に学び、次の世代の方々にご法義がわかりやすく伝わるよう、ここにその肝要を「浄土真宗のみ教え」として味わいたいと思います。

浄土真宗のみ教え

南無阿弥陀仏
「われにまかせよ そのまま救う」の 弥陀のよび声
私の煩惱と仏のさとりは 本来一つゆえ
「そのまま救う」が 弥陀のよび声
ありがとう といただいて
この愚身をまかせ このままで
救い取られる 自然の浄土
仏恩報謝の お念仏

み教えを依りどころに生きる者 となり
少しずつ 執われの心を 離れます
生かされていることに 感謝して
むさぼり いかに 流されず
穏やかな 顔と 優しい言葉
喜びも 悲しみも 分かち合い
日々 精一杯 つとめます (三頁下段へ続く)

(二頁から続く)

来る二〇二二(令和五)年には親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要をお迎えいたします。聖人が御誕生され、浄土真宗のみ教えを私たちに説き示してくださいましたことに感謝して、この「浄土真宗のみ教え」を共に唱和し、共につとめ、み教えが広く伝わるようお念仏申す人生を歩ませていただきますよう。なお、二〇一八(平成三十)年の秋の法要(全国門徒壯悼法要)の親教において述べました「私たちのちかい」は、中学生や高校生、大学生をはじめとして、これまで仏教や浄土真宗にあまり親しみのなかった方々にも、さまざまな機会を引き続き唱和していただき、み教えにつながっていくご縁にしていきたいと願っております。

二〇二二(令和三)年四月十五日

浄土真宗本願寺派門主 大谷 光 淳

〈原 文〉

法語の世界

前々住上人 蓮如 仰せられ候ふ。家をくり候ふともつぶりだにぬれずは、なにとほかともくゑし。万事過分なることを御きらひ候ふ。衣装等いたるまでもよきもの着んと思ふはあさましきことなり。冥加を存じ、ただ仏法を心にかげよと仰せられ候ふ云々。(『蓮如上人御一代記聞書 二百五十九』)

〈現代語訳〉

蓮如上人は、「家をつくるにしても、頭さえ雨に濡れなければ後はどのようにつくてもよい」と仰せになりました。何ごとにつけても、度をこえたことをおきらいになり、「衣服などに至るまでもよいものを着たいと思うのはあさましきことである。目に見えない仏のおはたらきをありがたく思ひ、仏法のことだけを心がけるようにしなさい」と仰せになりました。

〈用語の意味〉

つぶりだにぬれずは……頭さえ雨にぬれなければという意

ご本山では恒例の「春の法要」が四月十三日から十五日まで本山・御影堂で営まれ、十三日・十四日には聖徳太子千四百回忌法要が、十五日には立教開宗記念法要がおつとまりになりました。
ご門主は十五日の立教開宗法要の後に、「『浄土真宗のみ教え』についてのご親教」を述べられました。ここに全文を掲載し紹介しております。
ご親教を是非一読いただきたいと存じます。
その上でご門主がお示しくださっていますように、『浄土真宗のみ教え』をご家庭のお仏壇の前で、寺院の本堂で、あるいは折に触れて、家族やお同行と共に唱和し、共につとめ、み教えが広く伝わるようお念仏申す人生を歩んでいきたいものです。